

南アルプス ユネスコ エコパーク 10 周年記念大会の開催 「未来につなげ！ライチョウの生きる山々、南アルプス」

1.要 旨

本年は、2014 年6月に南アルプスがユネスコエコパークに登録されて 10 年目の節目の年で、これまでに様々な記念行事を開催してきました。

今回、10 周年を締めくくる記念大会を、12 月 14 日と 15 日に静岡市民文化会館で開催します。

2.南アルプス ユネスコ エコパークについて

(1)ユネスコ エコパークとは【別紙1参照】

生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的として、1976 年にユネスコが開始した、「人間と自然の共生に率先して取り組んでいる国際的に認定された地域のモデル」です。世界に 748 地域が存在しています。

ユネスコエコパークの基本的な考え方は、「自然は大事なもので、守っていくべきである」「人間の生活のために自然を使っていく必要があり、地域経済も豊かにしたい」というものです。

そのために、ユネスコエコパークは、生物多様性を守る「保存機能」、持続可能な発展のための研究調査、教育の場としての「学術的研究支援」、自然環境と人間との共生のモデルとしての「経済と社会の発展」の3つの機能を有しています。

また、この 3 つの機能を果たすための3つの地域が存在します。

「核心地域」は、国立公園の特別保護地区など、法律やそれに基づく規制により自然環境を守らなければならないエリアです。

「緩衝地域」は、自然の仕組みなどを学ぶ活動や自然を利用したレジャーなどの取り組みが行われるエリアです。

「移行地域」は、人々が居住しており、有機・無農薬農業など自然と共生した経済活動を行うエリアです。

(2)南アルプス ユネスコ エコパークとは

「南アルプスユネスコエコパーク」は、山梨県、長野県、静岡県の3県10市町村にまたがっており、東京都のおよそ1.5倍の面積があります。また、標高3,000m 級の山々が連なり、ライチョウ生息地の世界的な南限としても有名で、豊かな自然と、固有種や氷河期の遺存種など、希少な種を多く有しています。

次頁あり

3.南アルプス ユネスコ エコパーク 10 周年記念大会

(1)大会テーマ:未来につなげ！ライチョウの生きる山々、南アルプス

エコパーク登録までの経緯や自然環境の保全と利活用に関するこれまでの取組、高山植物やライチョウの保護活動、そして、南アルプス ユネスコ エコパークの保全と利活用の目指すべき姿について識者が大いに語ります。また、南アルプスを体感するワークショップの開催や、南アルプスにゆかりのある 物販、飲食コーナーなど、楽しいイベントも開催します。

この大会への参加を通じて、少しでも南アルプスを身近に感じていただき、「生態系の保全と持続可能な利活用の調和」に貢献するために行動しようという共鳴・共感・共働の輪が広がることを期待しています。

参加費無料で、どなたでもご参加いただけます。ぜひ、会場へお越しください。

(2)開催概要

日程:12月14日(土)11時～17時、15日(日)10時～17時

会場:静岡市民文化会館(静岡県静岡市葵区駿府 2-90) 中ホール・A展示室・大会議室

(3)プログラム概要 【参考資料(案内チラシ)を参照】

① 10 周年記念講演

【1日目(14日・中ホール)】

南アルプスユネスコエコパークに学ぶ

今大会の大会長であり、南アルプスを含めた高山帯での高山植物等を研究されている静岡大学客員教授増澤武弘(ますざわ たけひろ)氏による南アルプスユネスコエコパークに関する講演です。

南アルプスには世界南限のライチョウが住む

静岡ライチョウ研究会会長である朝倉俊治(あさくら としはる)氏によるライチョウに関する講演です。

望月将悟トークショー

静岡市消防局の山岳救助隊員として勤務しながら、富山湾から駿河湾まで日本アルプスを縦断するTJAR(トランス・ジャパン・アルプス・レース)で、2010年から4連覇を達成した望月将悟(もちづき しょうご)さんによるトークショーです。

次頁あり

【2日目(15日・中ホール)】

生き残れるか、南アルプスのライチョウ

世界の南限に住むライチョウの生活やその四季の姿、ライチョウへの温暖化による影響について、朝倉俊治氏、長野県環境保全研究所の堀田昌伸(ほったまさのぶ)氏、「雷鳥写真家」にしてライチョウ総合作家である高橋広平(たかはしこうへい)氏が語ります。

南アルプスの雄大な自然の持続的な利活用

南アルプスの豊かな自然を利用したお酒造りなど、その利活用について、十山株式会社 代表取締役の鈴木康平(すずき こうへい)氏、静岡大学発酵とサステナブルな地域社会研究所の丑丸敬史(うしまる たかし)氏がお話します。

静岡市の取組

静岡市が市内高校生と連携して行った防鹿柵の設置や一般財団法人南アルプスみらい財団による「源流の碑」設置の取り組みを紹介します。

パネルディスカッション 朝倉俊治氏×鈴木康平氏×望月将悟氏

南アルプスにゆかりのある3名の方に、南アルプスユネスコエコパーク次の10年に向けた保全と利活用について語り合ってください。

② 写真展(14、15日・A展示室)

高橋広平写真展「雷鳥～四季を纏う神の鳥～2024 SHIZUOKA ver.」

美しい雷鳥の写真を撮り続ける高橋氏の展示会とトークショーを開催します。

③ 物販・飲食・ワークショップ等(14、15日・大会議室)

南アルプスゆかりの物販と飲食コーナー

南アルプスの恵みから生まれたおいしい食べ物の販売やライチョウのミニチュアなどを販売します。

南アルプスを体感するワークショップコーナー

山々や動植物に焦点を当て、南アルプスを体感できるワークショップや展示を実施します。

南アルプストークセッション 田中幹也氏×望月将悟氏×大石明弘

日本を代表する著名な登山家の田中幹也(たなか かんや)さん、大石明弘(おおいし あきひろ)さん、そして、望月将悟さんによるトークセッションです。

登録10周年を記念して設置した大井川源流の碑の完成を祝して、南アルプスの魅力を大いに語り合います。

[次頁あり](#)

4.今後の南アルプス保全・活用に向けた取り組みへの協力の呼びかけ

(1)南アルプス・パートナーシップへの参加のお願い

南アルプスの生態系の保全と持続可能な利活用の調和に向けた取り組みをいっそう広げるためには「社会の大きな力」と「世界の大きな知」が集まり、つながることが必要です。静岡市の活動に賛同いただき、様々な形で「連携・共創」していただける企業や団体の皆さんを募っています。

本年4月には、10の企業や団体の皆さんと「パートナーシップ宣言式」を開催しました。その後、10の団体の皆さんに加わっていただき、現在の賛同者は20となっています。

井川に令和7年7月にオープン予定のミュージアムの展示品や南アルプスに点在する山小屋整備に必要な資材の提供、その他静岡市の活動への知見・助言をいただくなど、様々な形でご協力いただける企業・団体様をお待ちしています。

(2)南アルプスユネスコエコパーク保全活用基金への寄附のお願い

南アルプスユネスコエコパークの環境保全や魅力の発信・活用をしていくためには、動植物の保護や登山の安全確保が必要となります。今後の環境保全や地域資源の活用を進める取組を社会と協働で行うために、ふるさと寄附金などを積み立て、活用事業の財源とするために、2024年2月に立ち上げた基金です。(11月までに約5,000万円の寄附)

趣旨に賛同いただける方からのご寄附をお待ちしています。

【参考】南アルプスユネスコエコパーク登録10周年記念行事

3月:南アルプスパートナーシップ宣言制度の確立

4月:宣言式の開催

6月:井川ビジターセンター等における10周年記念イベント

7月:大井川源流の碑建立

10月:高山植物保護セミナー、ミズナラ植樹イベント(森づくりツアー)

11月:令和6年度南アルプスクリーン活動

担当:環境共生課(054-221-1357)

南アルプスユネスコエコパーク10周年記念大会 「未来につなげ！ライチョウの生きる山々、南アルプス」

当日は直接会場に
お越しください！

参 加
無 料

南アルプスは令和6年6月にユネスコエコパーク登録10周年を迎えました。
この記念大会では、識者の講演やライチョウの写真展、だれでも楽しめるワークショップ
などを通じ、南アルプスの魅力を存分に感じてください。そして、その雄大な自然を持続
可能なものにするため、自分にできることをいっしょに考えてみませんか。

日時・会場

2024年12月14日（土） 全体11：00～17：00

2024年12月15日（日） 全体10：00～17：00

静岡市民文化会館（静岡市葵区駿府町2-90）

中ホール・A展示室・大会議室



10周年記念講演(予定)

※時間・内容は変更に
なる場合があります。

12月14日（土） 会場：中ホール

13：30～13：40 開会あいさつ

13：40～13：45 南アルプス親善大使任命式

13：45～14：30 南アルプスユネスコエコパークに学ぶ

14：30～15：15 南アルプスには世界南限のライチョウが住む

15：30～16：30 望月将悟 トークショー

増澤 武弘氏（10周年記念大会長）

難波 喬司氏（静岡市長）

望月 将悟氏（静岡市消防局）

増澤 武弘氏（静岡大学客員教授）

朝倉 俊治氏（静岡ライチョウ研究会）

望月 将悟氏（静岡市消防局）

12月15日（日） 会場：中ホール

I部 生き残れるか、南アルプスのライチョウ

10：00～10：25 最南端のライチョウの生活

10：25～10：50 温暖化でどうなる高山帯のライチョウやお花畑

10：50～11：15 写真で見る雷鳥の四季

朝倉 俊治氏（静岡ライチョウ研究会）

堀田 昌伸氏（長野県環境保全研究所）

高橋 広平氏（雷鳥写真家）

II部 南アルプスの雄大な自然の持続的な利活用

11：30～11：55 南アルプスの豊かな森の保全と活用

11：55～12：20 南アルプスの酵母からお酒を造る

鈴木 康平氏（十山株式会社）

丑丸 敬史氏（静岡大学教授）

III部 静岡市の取組

13：30～13：55 南アルプスの関係人口増加と防鹿柵設置の取組

13：55～14：20 10周年記念 源流の碑設置の取組

静岡市環境共生課・静岡聖光学院

一般財団法人 南アルプスみらい財団

IV部 パネルディスカッション

15：00～15：50 南アルプスユネスコエコパーク次の10年に向けて～保全と利活用～

進行：増澤 武弘氏（静岡大学客員教授）

※各部終了後に質疑応答の時間を設けます

主 催：南アルプスユネスコエコパーク10周年記念大会実行委員会（大会長：増澤武弘、実行委員長：朝倉俊治）

問合せ先：静岡市環境局環境共生課エコパーク推進係（静岡市役所静岡庁舎新館13階）

TEL:054-221-1357 FAX:054-221-1492

Mail:kankyou-kyousei@city.shizuoka.lg.jp

静岡市HPはこちら⇒



A展示室 (3階) 14日11:00-17:00、15日10:00-17:00

高橋広平写真展「雷鳥～四季を纏う神の鳥～2024 SHIZUOKA ver.」

美しい雷鳥の写真を撮り続ける高橋氏による展示会とギャラリートークを実施します。



高橋 広平氏

「雷鳥写真家」にしてライチョウ総合作家。2007年に初めて雷鳥と出会い独学で写真を始め、2013年田淵行男賞写真作品公募での岳人賞の受賞を機に本格的に活動始める。

写真展や講演会などを各地で開催し保護普及啓発を推進。「ライチョウ観察ルールブック」(JAGS/環境省)を執筆するなど身に付けた知識と経験から人と雷鳥の関係に深く関わる。

「雷鳥とその生態系」をテーマに長野県安曇野に居を構え活動中。

ギャラリートーク(予定):12/14 13:30～、12/15 13:30～

大会議室 (3階) 14日11:00-17:00、15日10:00-17:00

南アルプスゆかりの物販と飲食コーナー

南アルプスの恵みから生まれたおいしい食べ物の販売や雷鳥のミニチュアなどを販売します。

- ・NPO法人静岡県自然史博物館ネットワーク...南アルプスの動物ミニチュアの販売等
- ・井川蒸溜所(十山株式会社)...「井川蒸溜所SINGLE MALT Dessin Series Flora 2024 (200ml)」販売
※イベント限定販売・数量限定! ウイスキー等の試飲
- ・光岳小屋...山小屋グッズの販売等
- ・尾州真味屋総本舗...オクシズジビエの加工品販売
- ・のらり屋(井川)...在来作物クッキーや井川紅茶の販売
- ・みんぐるいかわ(15日のみ)...オリジナルスパイスカレーなどの提供、販売
- ・KAWANESENSE(14日のみ)...川根ゆずジュースの提供、ゆず商品の販売
- ・天神屋...お弁当、しぞーかおでん、おむすび等の販売



南アルプスを体感するワークショップコーナー

参加無料

山々や動植物に焦点を当て、南アルプスを体感できるワークショップや展示を実施します。

- ・静岡市(環境共生課)...どんぐりを使用した南アルプスの動物ミニチュア作り等
- ・静岡ライチョウ研究会...活動報告の展示等
- ・静岡聖光学院...南アルプスに関する展示
- ・川根本町...動物の毛皮当てクイズ
- ・南アルプスみらい財団...VR山頂体験
- ・静岡市消防局(山岳救助隊)...装備品の展示(15日のみ)
- ・杣プロジェクト...木工作体験、木工小物の販売等



南アルプストークセッション

田中幹也氏×望月将悟氏×大石明弘氏

12/15(日)

12:40-13:20

南アルプスユネスコエコパーク登録10周年を記念して設置した大井川源流の碑の完成を祝し、南アルプス山域の魅力についてトークセッションを行います。



田中 幹也

1965年生まれ。86年から89年の4年間でグランドジョラス北壁など180本以上のルートを登攀。13年植村直己賞受賞。



望月 将悟

1977年静岡市井川生まれ。19歳で静岡市消防局入局。24歳で山岳救助隊員に。富山湾から駿河湾まで日本アルプスを縦断するTJARで2010年から4連覇達成。



大石 明弘

1979年生まれ。98年に野口健エベレスト登山隊に参加した後、01年にチョー・オユー山(8,201m)の無酸素登頂などを達成。執筆活動においても「日本人とエベレスト」で「梅棹忠夫・山と探検賞」を受賞するなど活躍中。

- 1971年に始まったUNESCOの「MAB計画」を重点的に行う場所として、1976年に登録がスタート。
- 正式名はBiosphere Reserve (BR) 。
- 日本語訳は生物圏保存地域。
- ユネスコエコパークは日本での通称。
- 科学的な視点から、自然資源を持続的に使いながら自然環境を守っていく方法を模索する場所。

<比較表>

	世界自然遺産	ユネスコエコパーク	ユネスコ世界ジオパーク
目標	顕著な普遍的価値を有する自然の遺産の 保護	生態系の 保全 と持続可能な 利活用 の調和	地質とそれに関連する遺産の 保護 と持続可能な 発展
開始年	1972年	1976年	2004年
数	227地域	748地域	177地域
法的枠組み	条約	公式プログラム	公式プログラム
主眼	自然の記念物	生態系	地質・地形

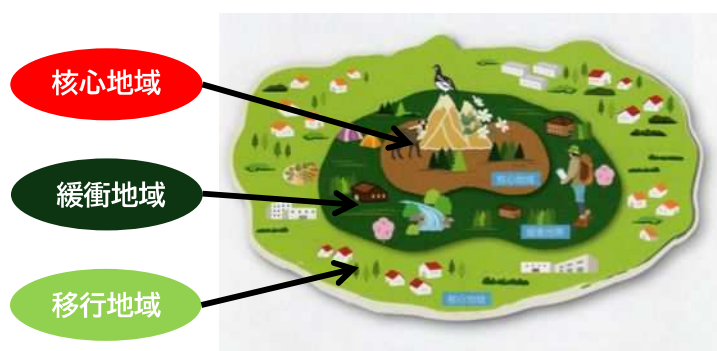
「ユネスコエコパーク」の考え方

1. 自然は大事なものの。守っていくべき。
2. 人間の生活のために自然を使っていく必要がある。地域経済も豊かにしたい。

「ユネスコエコパーク」の機能

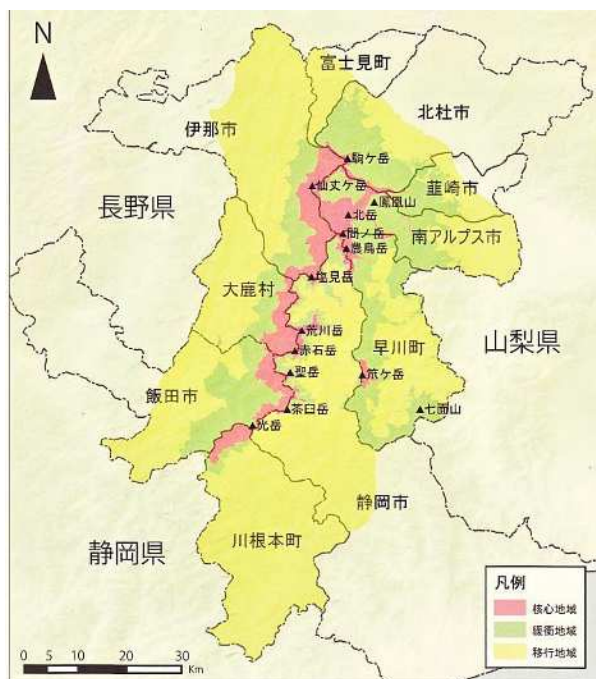
1. **保存機能** 生物多様性を守ること
2. **学術的研究支援** 持続可能な発展のための研究調査、教育の場であること
3. **経済と社会の発展** 自然環境と人間との共生のモデルとなること

「ユネスコエコパーク」の3つのエリア



- 自然環境を保全していくエリア。国の法律により保護が必要。
- 核心地域を取り囲むように守るエリア。自然の仕組みなどを学ぶ活動や自然を利用したレジャーなどの取り組みが行われる
- 人々がふつうに居住しているエリア。生物多様性に配慮しながら、有機・無農薬農業など自然と共生した経済活動を行うようなエリア。

国内最大面積のユネスコエコパークが「南アルプス」



3県10市町村
 総面積 302,474ha
 ・ヨセミ国立公園とほぼ同じ
 ・東京都の約1.5倍
 エリア内人口は122,419人